

令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	リーフレット「SDGs でパンデミックを乗り越えよう」作成
研究者所属・氏名	研究代表者：生物理工学部准教授 新田和宏 共同研究者：社会連携推進センター教授 奥田祥子 人権問題研究所教授 熊本理抄 グローバルエデュケーションセンター准教授 高橋朋子 総合社会学部教授 藤田 香 経営学部准教授 宮本多幸 社会連携推進センター教授 安田直史 総合社会学部講師 保本正芳 国際学部准教授 アンドリュー・アトキンズ

1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

目 的

新型コロナウイルス COVID-19（ウイルス名：SARS-CoV-2）によるパンデミック（世界的大流行）への対応の仕方が、おそらく、パンデミック収束後における「コロナ後の社会」（「ポスト・コロナ社会」）の在り方を決めることでありましょう。それ故に、パンデミックへの対応の仕方が極めて重要であり、その対応の仕方から一定の社会的な流れがつくられ、パンデミック収束後の社会の在り方を方向付けるということは、ほぼ間違いないと言えます。それでは、如何にしてパンデミックに対応すべきか。おそらく、SDGsこそパンデミックへの対応の仕方を、適切かつ公正に指南するものと考えられます。

そこで、本企画は、研究代表者および共同研究者が「SDGs でパンデミックを乗り越えよう」という共有する問題意識の下に、基礎ゼミにおいて SDGs を取り上げる際に、副教材となるリーフレットを作成し、受講生へ提供することを具体的な目的に据えました。

リーフレット「SDGs でパンデミックを乗り越えよう」は、SDGs によるパンデミックへの向き合い方をテーマごとに紹介しつつ、その向き合い方が「コロナ後の社会」において、SDGs の推進に繋がっていくことについて、熟考を促す格好のマテリアル（考えるための材料）となっております。

内 容

リーフレット「SDGs でパンデミックを乗り越えよう」を作成しました。

本申請により、近畿大学の学生を対象に、基礎ゼミなどの授業で SDGs を取り上げる際の副読本としてリーフレット「SDGs でパンデミックを乗り越えよう」を作成しました。尚、製本されたリーフレットの表紙と裏表紙には、アフリカのザンビアで廃棄されるだけであったオーガニック栽培のバナナの茎から繊維を取りだし、それを日本の和紙の技術を用いて生産した紙を用い、SDGs の教材として相応しい体裁に仕上げました。

このリーフレットは、主に、基礎ゼミで SDGs を取り上げる際の副教材として利用されることを念頭に置いています。もちろん、基礎ゼミ以外にも、SDGs や持続可能な開発／社会などを主題とする科目の副教材として用いることもできる内容となっております。

2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

リーフレット「SDGs でパンデミックを乗り越えよう」(全 83 頁)を、2020 年 11 月 14 日、500 部作成・発行しました。以下に、目次を紹介します。

序 章

SDGs でパンデミックを乗り越えよう (生物理工学部 新田和宏)

第 1 章 SDG 3

健康と社会 ～パンデミックから見る SDGs～ (社会連携推進センター 安田直史)

第 2 章 SDGs 1&2&3&5&8&10

人権・平等・貧困 (人権問題研究所 熊本理抄)

第 3 章 SDGs 5&8

ディーセント・ワークとジェンダー平等 (社会連携推進センター 奥田祥子)

第 4 章 SDGs 4&10

教育・留学生・移民 (グローバルエデュケーションセンター 高橋朋子)

第 5 章 SDGs 16&17

パンデミックを収束するために求められるグッド・ガバナンスの確立と市民社会スペースの強化 (新田和宏)

第 6 章 SDGs 8&9

「より良い未来」へのビジネス、産業、経済モデル (経営学部 宮本多幸)

第 7 章 SDG s13&14&15

地球の限界 (総合社会学部 保本正芳)

第 8 章 SDGs 8&12&13

リーフレット「SDGs でパンデミックを乗り越えよう」 (総合社会学部 藤田香)

終 章

将来世代へ (新田和宏)

このリーフレットは、パンデミック下において、研究代表者および共同研究者が担当する基礎ゼミ SDGs や持続可能な開発/社会などを主題とする科目の副教材として利用します。

尚、2020 年度後期、研究代表者が担当する「特殊講義 A」(SDGs)において、リーフレットを副教材として利用した。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

2021年3月11日現在、米国ジョンズ・ホプキンス大学の統計によれば、世界全体におけるCOVID-19の感染者数は1億1803万1147人、および死者数は261万9799人を数えました。ちょうど1年前、2020年3月11日、COVID-19のアウト・ブレイク（感染爆発）を前にして、WHOはパンデミック（世界的大流行）を宣言しましたが、それから1年後、世界人口の約70人に一人がCOVID-19に感染するという事態となりました。

COVID-19に対抗するmRNAワクチンなどの接種が始まりましたが、未だにCOVID-19が終息する兆しは見え、むしろ感染力を強化した変異株による第4波の感染拡大が懸念されている状況にあります。他方、SDGsを主導する国連は、COVID-19によるパンデミックの影響により、SDGsの取り組みが停滞もしくは後退しつつある状況を大変憂慮しています。

リーフレット「SDGsでパンデミックを乗り越えよう」は、1年生の基礎ゼミにおけるSDGsの副読本として計画されましたが、今後は、同様の問題意識を継承しつつも、教養もしくは専門科目において用いられることを想定した、SDGsや持続可能な社会論などのテキストを作成・出版したいと思います。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
日本環境教育学会大会	口頭発表	2020年8月22日
日本環境教育学会関西支部研究大会	口頭発表	2021年2月21日

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

上記、日本環境教育学会大会において「リーフレット『SDGsでパンデミックを乗り越えよう』」、同関西支部研究大会において「パンデミックによって露呈した環境教育の脆弱性と今後の環境教育の在り方ー日本環境教育史研究IVー」を通じて、リーフレット「SDGsでパンデミックを乗り越えよう」の教育的意義について説明しました。